

一般財団法人 研究学園都市コミュニティケーブルサービス
第43回 放送番組審議会 議事録

- 1 日 時 令和5年3月29日(水)午前10時30分～午後零時00分
- 2 場 所 ホテル日航つくば 本館3階ジュピターウエスト
- 3 出席者 中山伸一会長、馬場清康委員、鷺田美加委員、石塚敏之委員、勝村英樹委員、松坂秀幸委員

【ACCS】

森下理事長、金谷副理事長、梅原理事、竹谷理事、山崎放送部次長、小野放送部次長

4 議案の審議経過等

- (1) 会議に先立ち、定足数の確認を行ったところ、出席委員は6名であり、委員総数7名の過半数を超えていることから、放送番組審議会規定第4条1項の規定により、本審議会は有効に成立していることを確認した。
- (2) 議事に入る前に、森下理事長がACCSを取り巻く状況と今後について説明した。
- (3) 中山会長の進行で議事に移り、まず昨年開催した第42回放送番組審議会の議事録の内容を確認した(議事1)。続いて、令和4年度に制作・放送した中から4番組のVTR(15分)を上映し、「ACCSコミュニティチャンネル放送について」(議事2)と「多チャンネル放送番組等について」(議事3)を説明し、意見交換した。

5 意見交換

【松坂委員】

同じ放送業者ということで苦労が推測できる。地域に根差したメディアということで、地域の方々の顔が見えるコンテンツを精力的に制作されている。私どもも背筋が伸びる思いがした。

「月刊チラシズム」がとても面白い。広報誌を娯楽として放送されている。他の自治体の広報誌を紹介するので、その自治体に住んでない人にとって、「隣の自治体がこんなことをやっている」と気づく。「デジタルトランスフォーメーション」(DX)といった用語の説明があってわかりやすい。

「つくば発 熱中スポーツ」で、地元で元気に活動されている方を見ていると、こちらも元気になる。多くの方がコロナ禍でも元気にされていることがわかり、人気番組だというのはわかる。

「七夕コンサート」は、我々が作ると余計な情報を付け加えるが、地域の方々の取り組みを

丁寧に伝えて紹介する地域密着の番組になっている。学ぶところが大きかった。

放送が時代の大きな変化の中で曲がり角にある、と前から言われているが、従来やってきたことではお客様は付いてきていただけないという状況がある。圧倒的にネットが強い。YouTube や SNS を積極的に活用されているということだが、「つくばに ACCS あり」という存在感を認識していただくうえでもデジタル発信が必要だ。NHK 放送文化研究所の調査では、10 代～20 代の半分以上はテレビを見ない、またはテレビを持ってない、という結果が出ている。テレビを持ってない人に情報を届けようとしても届かない。やはり地域密着がこれまで以上に大きなカギを握っている。

【勝村委員】

マンパワーが少ない中で新たなことに取り組み、つくばの魅力を発信していただいて感謝している。番組を見させていただいて「月刊チラシズム」にはドキッとした。私たちは広報誌を作っているの、つくば市が何か言われるのか、と不安になった。私の部署には県内すべての広報誌が届く。近隣市町村の動きを知ることは大事で、つくば市民に対してもそれを認識していただくことが大事だ。

「つくば発 熱中スポーツ」は、地域でスポーツを年齢関係なくやっていること、楽しんでやっていることが伝わる番組なので、見ている人が体を動かしてみようかなどの啓発につながる。

「セタコンサート」の素晴らしさは、一人ひとりが真剣にやっているのが伝わること。ただ、出演した方の声が聞ければ、もっと良くなったと思う。若い世代はテレビを見なくなっているの、SNS での発信は非常に有効だ。

【中山会長】

「月刊チラシズム」は面白い視点で捉えているので、市役所に番組を送って全員に見ていただくという体制を検討願いたい。

【石塚委員】

テレビは大きな画面でいろんな物を見られ、スマホは小さい画面で窮屈だが様々な情報にアクセスできて便利であり、使い分けが大事だと感じている。

紹介いただいた番組を見て、ケーブルテレビの情報の価値を改めて感じた。ケーブルテレビには新聞とは異なった魅力があり、身近で起きていることを映像で確認できることは、地域を知ることで大事だ。

「月刊チラシズム」にはクオリティの高さを感じた。私は DX 構想の関連した仕事をしているが、役所の窓口で書かない、行かない、どこでも受けられるというサービスは自治体間でものすごく差がある。市民が自治体によって違うことを知るといことはとても大事なことだと思う。

自主制作番組は、時代の変化や地域の変化とどうマッチするかが大切で、早すぎず、一歩先、半歩先を取ることで、市民にアピールできると思う。「つくば発 熱中スポーツ」のソフトボー

ルは、幅の広い年齢層の人たちが楽しんでいると感じた。

防災情報については、有事の情報提供は大事だが、平時の情報提供をどうするかも大切だ。避難所はどこか？食料の準備は？といった防災情報をストーリーとして取り上げて非常時だけでなく、平時の備えをどうするかということ伝えてほしい。

【中山会長】

「月刊チラシズム」の冬木さんのような人をどう発掘するかが重要だ。スポーツ番組は伝手にかかっているが、人材を見つけるのはなかなか難しい。委員の皆さんもそういう方を知っていたら、ぜひ伝えてもらい、新しい番組づくりに役立てるようにしていただきたい。

【鷺田委員】

コロナ禍を経て、地域のつながりの希薄化が叫ばれているが、子供たちの雑談力が落ちたと感じていると、教師が話していた。ACC Sは時間の流れのつながりや世代のつながりなどを番組の中で丁寧に作っているのだから、現在とこれからの時代に求められている役割を担っていると思う。

「月刊チラシズム」は臨場感がある。つくば市や他市町村で、いま何がホットなのかをつまみ食いして見せてくれるので勉強にもなる。私は自治会の広報部長を務めており、広報誌を作るときにどんな話題だと読んでもらえるのか、この番組を参考にしている。また、「ACC Sアーカイブ」をヒントに、「あの頃のわが町」という特集を組んだら、反響が大きかった。「つくば発 熱中スポーツ」では、チームの皆さんが日焼け防止策を講じられ、親近感が沸いた。

「七タコンサート」を見て思ったのが、このような活動をしている方々は、自分たちの活動に一生懸命なので、広報活動まで気が回らない。ACC Sに取り上げていただくと、皆さんが喜ぶので一般の人がテレビに出る機会をこれからも作ってほしい。

昨年提案した「市長が語る」がYouTube にアップされた。まちのリーダーが何を考えているのかが分かるので、多くの人が見ることが大事だ。マイナンバーカードの普及率が75%になり、コンビニでの証明書の取得が格安になるという限定キャンペーンや選挙のやり方も新しくする、という話が印象に残った。

県の選挙管理委員会委員を務めているが、昨年7月にあった参議院選挙茨城選挙区の投票率が47.22%で、都道府県ランキングは43位だった。とても悪い結果で地域メディアの中で選挙に親しめるための広報をしていただけたらと思う。他県の例では、地元の高校生による選挙PRのCMを地域番組で放送していた。高校生は訴求力があるので、若い方が参画しての啓発を行ったらどうかと思った。

【中山会長】

ACC Sは狭い地域で番組づくりを行っているため、顔の見える番組が多い。以前は小学生が夢を語る番組があったが、個人情報の問題でできなくなった。自分で情報発信をしたい人がACC Sに情報を提供することがあっていい。そういう体制を作ることが大事だ。

【馬場委員】

視聴者の立場として述べる。

「月刊チラシズム」は多くのチラシや広報誌を集めて大変だと思う。毎回興味を持って見ている。以前放送したドラマ「サイコドン」の映像を使ったオープニングが気に入っており、個人的には「サイコドン」の続編を期待している。

「つくば発 熱中スポーツ」で初めてラート競技を見た。ソフトボールは皆さんが覆面してやっているというのがコロナ禍という時代を表している。将来見たらびっくりするだろう。今後も珍しいスポーツや地域に根差したスポーツを紹介してほしい。

「七タコンサート」は音がよくなった。個別にマイクで楽器から拾っているのがわかる。ホールと演奏者の音声の調整が大変だったと思う。

生放送の県立高校入試解答速報を見るのを逃してしまった。ACCSは速報性がないというが、こういうやり方をすれば速報性が出る。ぜひ今後も取り組んでほしい。

「ACCSアーカイブ」で、NPO法人の自然生クラブの内容がすばらしかった。オンデマンドでアーカイブを視聴できれば需要があると思う。研究者と視聴者が検索して見られるような、つくばの歴史資料として公開できるなら、将来取り組んでほしい。

つくばセンタービルを設計した磯崎新さんが昨年末亡くなった。センタービルは代表作で、今年6月に開業40周年なので何かの形で紹介してほしい。ACCSもアーカイブを活用した形でこのセンタービルを取り上げたら、つくばらしい特集が組めたのではないかな。

【中山会長】

アーカイブをどういう形で発信していくかは、NHKみたいにアーカイブセンターを設けるのは難しいと思うが、YouTube等をアーカイブ替わりにするという考えもあるので検討を願いたい。

【石塚委員】

つくばにとってつくばエクスプレス（TX）は大動脈だ。TX車内の広告に空欄が多いので、ACCSの魅力をアピールするのはどうだろう。家庭の中の話や職場での話題を提供する役割をACCSに果たしてもらいたい。

【中山会長】（総括）

つくば市には特異な人たちがいるため、文化的な側面が番組の割合として多い。昔は研究所に行き研究内容を紹介する番組があった。そういう番組を復活させてほしい。

また、「月刊チラシズム」の冬木さんに頑張って活動していただき、「つくば発!!熱中スポーツ」については、地域活動を知らせることは重要であり、アーカイブ的に重要だ。「ACCSスペシャル 七タコンサート」については、文化芸術の鑑賞に浸っている人には余計な情報かもしれないが、古典芸能はわからない人が多いので、グループの情報や曲の内容をテロップ的に流してほしい。制作する人が熱意をもって良い番組を作っていただきたい。